



クラスマッチ開催!

6月16日～17日、クラス対抗のスポーツイベント「クラスマッチ」が開催されました。
開会式では、選手代表の舞原稜大さん(3年)と熊谷太一さん(同)が「人気者になりたい」「彼女が欲しい」などとユーモアたっぷりに宣誓し、会場を盛り上げました。その後、生徒たちは長縄跳びや球技などで競い合い、学年やクラスの垣根を越えて交流を深めていました。



葛巻高校の生徒会3大行事の一つである、クラスマッチ。クラス全体で勝利を目指すというのはすごく熱いものがあり、1年生のクラスが上級生のクラスに勝つなど下克上が起こることもあります。さらに、教職員チームが競技に参加することもあり、普段は見られない先生方が見られるとても面白いです。教職員チームは大人なので綱引きがめちゃくちゃ強いですが、大人げないですね。

クラスマッチの見どころの一つに、お揃いのクラスTシャツがあります。クラスごとに面白いTシャツやかっこいいTシャツ、かわいいTシャツまで個性的なデザインです。Tシャツはカタログからさまざまな種類のデザイン

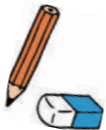


クラスTシャツに手書きのイラストを描く生徒も

クラスTシャツ



松下尚憲(2年) 高校生記者の松下尚憲です。葛巻高校の魅力伝えられるように頑張ります。



高校生記者レポート



を選ぶことができ、さらに自分でTシャツに入りたい名前や言葉、背番号を決めるなど、個性を出すことができます。そして、クラスTシャツのデザインや着こなしが一番良かったクラスは、先生方の投票による「クラT賞」を獲得できます。クラT賞の1、3位は、クラスマッチのポイントを獲得することができます。このクラスTシャツは一生の思い出になること間違いなしです。

畑周さんが走高跳で全国大会へ

4×100mリレーも東北大会出場果たす



葛巻高校陸上競技部(畑周部長、部員16人)は6月14日～17日、新青森総合運動公園陸上競技場で開催された第77回東北高等学校陸上競技大会に出場しました。

男子走高跳に出場した畑周さん(3年)は、盛岡市立河南中学校出身。中学時代も全国レベルの大会に多数出場してきた実力の持ち主です。山村留学で葛巻高校に入学すると、コロナ禍でも地道な練習で記録を伸ばし、今年の県大会で2位の成績を収めました。
東北大会では、6県の代表選手34人と競い、自己ベストの1.97mを2回目の跳躍でクリア。見事3位に入賞し、8月に徳島県で開催される全国総合体育大会(インターハイ)の出場権を手に入れました。「インターハイでは2.1mを跳んで、ベストを更新したい」と周さんは闘志を燃やしていました。

リレーも初の東北大会へ

同大会では、4×100mリレーのチームも初出場しました。陸上競



東北大会3位の賞状を手に笑顔の周さん(左)と練習で見た軽やかな跳躍

技の強豪校ではない葛巻高校で、しかもメンバーの大半が競技を始めたのは高校から、という中で東北大会出場は、まさに快挙です。サポートを含む7人のメンバーは全員3年生。町内出身生、町外出身生、山村留學生が一丸となって「仲間とともに東北へ」を目標に、町総合運動公園などで練習を重ねてきました。顧問の下村直子教諭は「とても仲が良く、常に良い雰囲気練習してきた」とチームワークの良さを語ります。
東北大会では予選突破を目指しましたが、第1走者から第2走者へのバトンが繋がらず、レースは悔しい結果に終わりました。レース後、生徒たちは悔しさをかみしめながらも、東北大会出場目標を達成した仲間との3年間を振り返り、一様に晴れやかな笑顔を見せていました。



東北の強豪校に挑んだリレーのレース(手前から2レーン目)

【生徒の皆さんの声】
(選手) ▼野中優一郎 3年間の結果が出せた。バトンを繋げなかった悔しさはいつか何かの形で晴らしたい。▼大畑翔空 この舞台に立てたことを誇りに思う。これからの経験に生かしたい。▼畑周 仲間と東北の舞台に立てたことを今後の人生の糧にしていきたい。▼佐藤遼河 走れなかったことが全てではない。東北大会に出場できて良かった。(サポート選手) ▼四日市拓海(サポート選手) ▼四日市拓海 仲間に入れてもらって、陸上で精神的にも肉体的にも成長できた。▼田野宇浩 喜怒哀楽を共にした仲間感謝している。この経験を忘れずにいたい。(マネージャー) ▼成澤瑠衣 みんなと過ごす時間が楽しく、陸上部に入って良かった。